

甲南大学法科大学院入学試験問題について

－2016 年度一般入学試験（前期募集）－

試験科目：商法(地方)（担当：法科大学院 教授 梅本剛正）

以下の事例を読み，設問に答えよ。

【事例】

上場会社である P 株式会社(以下、「P 社」)は，普通株式のみを発行しており，発行済株式総数 1 千万株・発行可能株式数 2 千万株である。同社の取締役会は，最近 Q ファンドなるものが P 社株式を 150 万株(発行済株式総数の 15%)取得して筆頭株主となったことを知った。詳しく調査してみると，ファンドは反社会的勢力の関係団体であり，以前にも複数の上場会社を乗っ取り，仮装増資などを繰り返して一時的に株価を高めて，高値で保有株を売り抜ける等して不正に利益を得ていたこと，会社を食い物にするだけでまともに経営がされなかったために対象となった会社はいずれも経営が混乱して倒産に至ったこと等を知った。

P 社がさらに調査したところ，Q ファンドは P 社株式を追加的に買い進めていることが判明した。P 社は，事態を放置すると，会社が危機的状況に陥ってしまうと考えて，同社の取引先 R 社と S 社(R 社と S 社の間に資本関係は存在しない)に対して，それぞれ 500 万株ずつ引き受けてもらうよう要請したところ，両社から承諾する旨の返事を受けた。そこで，P 社の取締役会は募集株式の発行手続きをとることとした(以下、「本件募集株式発行」)。なお，払込金額は本件募集株式発行を決定する取締役会決議前日の終値の 95%とすることとされた。

【設問】

本件募集株式発行を阻止するために，Q ファンドはいかなる法的手段を採ることができるか。また，それに対して，P 社はいかなる主張をすることができるか。

【解説】

募集株式発行の差し止めについて，主として不公正発行について論ずることが求められている。